

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師
奏楽 五十嵐美代枝姉妹

前 奏

開 会 招 詞 ハバクク書3章18-19節

* 賛 美 歌 96 : 1-2 詩編100編

地はみなこえあげ 主をたたえまつれ。うたいつつ来たり よろこびつかえよ。
われら造りたもう 主こそ神と知れ。われらはその民 その牧の羊。

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しななければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言 イザヤ書1章18節

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 81 : 1 神はひとり子を

神はひとり子をたもうほどに 世人を愛したもう 神は愛なり。

ああ、神は愛なり、けがれ果てし我さえ愛したもう 神は愛なり。アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 5 使 徒 信 条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審き給わん。

われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。 アーメン。

献 金 (黒) 大会謝恩日献金 (赤) 大会謝恩日献金 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖 書 朗 読 ハバクク3章17-19節 (旧約聖書1468頁)、

ローマの信徒への手紙8章18節 (新約聖書284頁)

説 教・ 祈 禱

「幸いへの近道？」

スパーリンク宣教師

* 賛 美 歌 95 : 1 冷たい罪の道を (ピアノ伴奏)

つめたいつみのみちを さまよっていたとき

主イエスはあいのみ手で わたしをすくわれた。主のあいはわたしをなくさめ

日々よろこびにみたす。わたしのせいかつはみ手によって 日々みちびかれる。

やがてはみくにのいえに住み すばらしいめぐみにあずかるだろう。

わたしのせいかつはみ手によって 日々みちびかれる、日々みちびかれる。

* 主 の 祈 り 祈 禱 書 1

天にましますわれらの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 33 : 3 昔主イエスの播きたまいし

時代の風は 吹きたけりて 思想の波は あいうてども、

すべてのものを超えてすすむ 主イエスの国は永久に栄えん。アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

門脇陽子長老 (司会・受付 次週：雨宮信長老)

本日 受付 1階：大日南隆夫執事 2階：森永美保執事 動画：

録音：

次週 受付 1階：藤井牧子執事 2階：藤原宏章執事 動画：

録音：

参 照：ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 1、27-28、32、52、58

中心的主張点： 避けて通れない苦しみがある。しかし、これがついに終わってしまい、その代わりに永遠の喜びが与えられようとしている。信じて、幸いな日々を送ろう。だって、神様に愛されている！

聖書箇所： ハバクク3章17-19節（新共同訳聖書 旧約聖書1468頁）

いちじくの木に花は咲かず / ぶどうの枝は実をつけず / オリーブは収穫の期待を裏切り / 田畑は食物を生ぜず / 羊はおりから断たれ / 牛舎には牛がいなくなる。しかし、わたしは主によって喜び / わが救いの神のゆえに踊る。わたしの主なる神は、わが力。わたしの足を雌鹿のようにし / 聖なる高台を歩ませられる。

聖書箇所： ローマの信徒への手紙8章18節（新共同訳聖書 新約聖書284頁）

現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないといわたしは思います。

序 説： 孫と付き合うことを勧めます！ 幸いへの近道といえば、思い切って出かけて、孫たちと付き合うことにあるかもしれません！ 今年の夏は、本当に面倒臭いことがたくさん伴う旅をしました。それは特にコロナウィルスによることでした。今までのアメリカ往復の旅で最も費用がかかりました。PCR検査を何回も受けたり、どこへ行っても3密を避けたり、アメリカ・日本の両側の入管や通関が大変でした。隔離生活も命じられ、余計な日数がかかりました。でもやはり、小さいうちに会って一緒に遊べたことが本当に良かったです。あっという間に成長するので、その時にお祖父さんとお祖母さんと付き合うことに興味を持たなくなるでしょう。でも今回はレゴの組み合わせの遊びや、マリオカートの遊び方を教えてもらったりして、プールで身体を冷やしながらいたずらしたりして、元気な7人の孫と触れ合うとても素晴らしい機会でした。家族に悩みやちょっと苦しいこともあります。

1、しかし、苦しみが本当に多いこの世である。

「普通」の試練に加えて、なおさらにこの頃の苦しみがあります。最近ではコロナウィルスの感染状況が気にかかって、今までの普通の生活になかなか戻ることが許されません。そしてだいたい誰にもこれに伴うストレスがかなり溜まっています。この現象はまるで私たちの足を引っ張って、心のくじけや落ち込みに陥れることがあります。政治界においても不安定が続きます。説教の趣旨に書いたように、「いろいろな苦しみや辛さを味わう場合、私たちは落ち込んで、動けなくなることがあります。自分が惨めな価値も意味もないものだと思います、諦めるのでしょうか。」実際に、中高生の間で自死する子が増えています。自分が消えていくほうが楽だと誤って、とても悲しい決断をしてしまう人たちです。

いかがでしょうか。あなたにそんな気持ちになったことがないでしょうか。絶望的な思いです。何とかして今の状況から脱出したい思い。このように聞き出すことも少し危ないかもしれませんが。でも、リストアップすれば、私たちが立ち向かわなければならない辛いことが多いです。不正、病、依存症、いじめ、事故、或いは慢性的苦痛。テレビ番組をのぞいてみれば、アフガンや

ミャンマーや、もっとひどい状況にある国々とその民が出てきます。史上 かつてないほどかもしれませぬ。

実は聖書にも大変苦しい目に逢った人たちの実例も多いです。兄達に奴隷として売り渡されたヨセフがいます。3人の子供に死なれたダビデ王がいます。不正に逮捕され、井戸に閉じこめられたエレミヤがいます。全き者なのに、何もかも失ってしまった、有名なヨブもいます。また、苦しむ主のしもべ、悲しみの人と呼ばれる、私たちの主イエス様ご自身もいらっしゃいます。このように数々の例があります。その代表として、詩編40編を書いた主の民がいます。「悪はわたしにからみつき、数えきれませぬ。わたしは自分の罪に捕えられ／何も見えなくなりました。その数は髪の毛よりも多く／わたしは心挫けています。主よ、走り寄ってわたしを救ってください。主よ、急いでわたしを助けてください。」（40編13-14節、ダビデ作）

2、 ハバククの例を見よう。

当時のユダ王国の状況を確認しましょう。今日は紀元前7世紀末の人物、預言者ハバククの例を見ています。当時のユダ王国に次々と起こる外国の軍勢による侵略があります。それ以前に、自分の地位を自分の利益のために不正に振る舞う指導者がいます。唯一の生ける神 主に替えて、みだらな行動が伴う偶像の崇拜を行っています。例えば、H2章17節、19節にこんな言葉があります。「レバノンに加えられた不法がお前を覆い／獣も絶えて、お前を恐れさせる。お前が人々の血を流し、国中で不法を／町とそのすべての住民に対して行ったからだ。... 災いだ、木に向かって『目を覚ませ』と言い／物言わぬ石に向かって『起きよ』と言う者は。それが託宣を下しうるのか。見よ、これは金と銀をかぶせたもので／その中に命の息は全くない。」言うまでもないことでしょうけれども、貧しい方々がこれによって多くの被害と苦しみを受けています。

これをこのままにほっておかれるでしょうか、と、預言者が主に向かって叫ぶと、主は これから、この不正を働く人たちに裁きを下すと宣言します。しかし、その懲らしめ、裁きというのは、バビロン帝国の軍勢を道具にして行くと主がおっしゃいます。当時のもっとも恐ろしい人達で、情け知らずの政策を用いて、町々を破壊して、住民を捕囚にして、難民にします。しかも、彼らもまことの神を知らないで、偶像崇拜者の国です。（伝説ではありますが、このハバククも結局、ダニエルたちと一緒にバビロンに連れて行かれたそうです。）

ハバククはこのことを主から伺うと、「主よ、とんでもありません。」と反応します。この古代バビロンは今日のISIS みたいな、不正を働き、平気に敗北者をさらに苦しめる人たちであって、主なる神を全く畏れないものではないか、と。このぐらゐのことを主が許すならば、貧しい人たちはなおさらに苦しい状態に置かれてしまうではないか、と。困り果てた預言者です。エルサレムに攻めのぼってきてこれを破壊します。背くユダを懲らしめる道具にバビロンを選ぶ。ハバククはヨブのように、主が正しい人たちをも苦しめるのですか、と問いだします。心を主のみ前に注ぎだし、「どうしてこんなことをしてもいいのですか。」と。本当に歴史にわたって多くの主の民の声がこのように神様のご計画に疑いを言い表します。

しかし、そこで主が預言者の疑問に、困り果てて、心がくじけたハバククに お答えになります。その答えに希望が湧いてきます。それはH2章2-4節にあります。「主はわたしに答えて、言われた。「幻を書き記せ。走りながらでも読めるように／板の上にはっきりと記せ。定められた時のために／もうひとつの幻があるからだ。それは終わりの時に向かって急ぐ。人を欺くことはない。たとえ、遅くなっても、待っておれ。それは必ず来る、遅れることはない。見よ、高慢な者を。彼の心は正しくありえない。しかし、正しい人は信仰によって生きる。」

救いの実現が遅くないかと思っても、ちゃんと待っていなさい。Wait for it! と主が励ましてくださるのです。ここに希望が湧いてくるのです。ハバクク書の2章14節はイザヤ書11章9節の引用です。ここに約束された救い主の平和と繁栄の時が予言されています。「水が海を覆うように／大地は主の栄光の知識で満たされる。」今はあらゆるところにまずいことばかり起こっています。不正がいつまでも続くのでしょうか？ コロナウィルスがいつまでも脅かすのでしょうか？ 私にある試練がいつまでも続くのでしょうか？私はひとりぼっちでしょうか。そうではない！私は見捨てられているのでしょうか？ そうではない！ わたしは惨めで価値のないものなのでしょうか？絶対にそうではありません。神様の約束がはっきりしています。「幻を書き記せ。走りながらも読めるように／板の上にはっきりと記せ。定められた時のために／もうひとつの幻があるからだ。それは終わりの時に向かって急ぐ。人を欺くことはない。たとえ、遅くなっても、待っておれ。それは必ず来る、遅れることはない。」（H2:2-3）あまりにも遠くて見えないのでしょうか。Wait for it! 待っていなさい。「それは必ず来る、遅れることはない。」と主が答えます。

そしてさらに言われます。「見よ、高慢な者を。彼の心は正しくありえない。しかし、正しい人は信仰によって生きる。」（H2:4）これはどんな時代にも苦しみを味わう主の民に与えられている神様のお約束です。不正と苦しみの終わりが確実に、ついにきます。これは今すぐに起こらなくても。私たちがこれを自分の努力によって起こすものではありません。私たちは信仰の目を持ってこれをはるか遠くから見るのです。信仰によって生きること、これが秘訣です。

使徒パウロはローマの信徒への手紙1章17節でこの言葉を引用しています。この言葉は実は偉大なローマの信徒への手紙全体のテーマです。だからこそ、本日の聖書朗読をハバクク書とローマ書の両方から選びました。二人は600年間も違う時代の人たちです。けれども、それぞれが置かれている状況から同じメッセージを述べています。それは命と希望のメッセージです。喜びと幸いに通じる道を語ります。苦しみがあるにもかかわらずです。聖書全体に渡って語られている救いのメッセージです。

ハバクク書の本日の朗読箇所をもう一度読みましょう。「いちじくの木に花は咲かず／ぶどうの枝は実をつけず／オリーブは収穫の期待を裏切り／田畑は食物を生ぜず／羊はおりから断たれ／牛舎には牛がいなくなる。しかし、わたしは主によって喜び／わが救いの神のゆえに踊る。わたしの主なる神は、わが力。わたしの足を雌鹿のようにし／聖なる高台を歩ませられる。」絶望の深淵から引き出されて高台に連れて行っています。山頂から遠い地平線を見ることが出来ます。実現しようとしている神様の約束された救いと主の民の将来がそこから見えるのです。

3、 旧約時代の預言者ハバククとローマの信徒に書簡を送る使徒パウロの関係を考えましょう。

パウロ達が味わった苦しみが実に大きかったです。すでにいろいろな辛い目にあっているローマのクリスチャンに手紙を書き送っています。皇帝ネロから下されるもっとひどい迫害とパウロご自身の殉教の死がこれから起ころうとしています。ここでよく注意しましょう。私たちがすべての苦しみから解放されるとは言いません。辛いことや痛みや我慢しきれない試練があることをちゃんと認めます。しかし、「待っていなさい。」とおっしゃいます。待つことに私たちがあまり上手ではありません！イエス様は「見よ、わたしはすぐに来る。」とおっしゃったではありませんか。それは今より2000年前のことではありませんか。

そうです。大昔の約束ですが、さらにおっしゃいます。「わたしはわたしの報いを持ってきます。それは命の冠で、新しい天地創造における輝かしい永遠の命です。」と。痛みも不正もない、かえって、平安と喜びの永遠です。これの実現をどのようにして待つのでしょうか。

神様の計画が着々と、一步一步前へ、完成へと進んでいます。これを信仰の目があれば見えることです。間違いなく、前進しています。天地創造の時から定まった大いなるドラマが前へ、前へ、苦しみの終わるときに向けて動いています。そこで使徒はこう書くのです。「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないといわたしは思います。」

この幸いへの近道があるでしょうか。いや、ありません。道は主イエス様ご自身です。つまり、イエス様に寄り頼む信仰です。このイエス様は私たちに、「各々自分の十字架を背負って私についてきなさい」とおっしゃいます。そのことに、想像を絶する報いが伴います。

決 論：

主が登らせてくださる山頂から地平線を眺めよう。信仰をもって待ち望んでいる主の約束の実現を期待しながら、苦しいことがあっても、人知をはるかに超える神の平安を味わおう。

私たちにこのような希望を抱いて、今を生きています。あらゆる時代の主の民と同じです。ヘブライ人への手紙11章に並んでいるいわゆる信仰の勇士達のように、この地上の人生の間にこれの実現を見ることがないかもしれませんが、定まった時が回ってくることを固く信じます。Wait for it! 待っていなさい。

けれども、ただ立ち止まってじっと待つものではありません。私たちの希望はただ遠い将来を巡るものだけではありません。「死んで天国に昇っていく」だけではありません。主の召してくださる民らしく、正義を働いて、弱いものを助け、イエス様のように正しい生活を送り、あらゆる者に憐れみを示すのです。そして、救いのグッドニュース、福音を伝え続けます。

私たちが抱く希望は私たちを変えます。モーセのように約束の地を眺めることができる山頂に連れて行かれて、神の国の完成を確認します。マーティン・ルター・キングもこれを有名な説教で話しました。“I have been to the mountaintop! ”

本当ですか。これを信じていいのですか。そうです。イエス様が死者の中からお蘇りになりました。この事実によって、神様のすべての約束が本当であり、信頼に値することを保証します。ハバククははるか遠くから将来実現することを待ち望みました。けれどもわたしたちは、歴史の中で実現したことを確認します。このようにして、不思議な平安が与えられます。たとえ、今は苦しみがあっても です。

祈 禱：

すべての時代に渡って、唯一の生ける全能の主なる神様、今日は昔主にお使えした預言者ハバククと使徒パウロのみことばをとらして、主の民に苦しみがあっても、救いの時を待ち望む勧めを確認することができたことを感謝いたします。今を生きている、様々な苦しみを味わっている私たちに本当に必要で、慰めに満ちたみことばでした。どうか、私たちをも、主が用意しておられるすばらしい将来をそこから覗くことができる聖なる高台を登らせてください。主が定めておられる 来るべき御国を夢見しながら、今の世界のすべての人たちに愛と憐れみを持って主の恵みを伝え、また、示すことができますように、どうか私たちを整え、お用いますように、こころより願います。また、すべてを恵み深い主に委ねて、主のご計画の実現、予言の成就を静かに待つことができますように、忍耐をお与えください。主イエス様の招きに答えて、私たちも、十字架を背負って後につくことができますように。恵みのみことばを感謝して、主イエス・キリストの尊いお名前によってお祈り致します。アーメン。